Synthesis and Insecticidal Activities of 5-Alk-2-enyl Substituted Furfuryl and 2-Thenyl Chrysanthemates. Kaoru Sota, Akifumi Hayashi, Katsumi Noda, Makoto Aida (Research Laboratory, Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Toshimaku, Tokyo) Received January 10, 1973. Botyu-Kagaku, 38, 106, 1973. (with English Summary 111).

16. 5-Alk-2-enyl 置換 Furfuryl および 2-Thenyl Chrysanthemates の合成と殺虫効果 曽田 馨, 林 晃史, 野田克巳, 会田真言(大正製柴株式会社研究部) 48. 1. 10 受理

5-alk-2-enyl 置換 furfuryl および 2-thenyl 第一菊酸エステル類が, それぞれ, furfuryl acetate と haloalkene 類および thiophene と crotyl alcohol または diene 類 (たとえば, cyclopentadiene) との反応から出発して合成された。 えられたエステルにつき, イエバエを用いて, 殺虫効力試験が行なわれた。

furfuryl エステル, thenyl エステル両系列共に, cyclopent-2-enyl 置換が最も有効で, 特に, その thenyl エステル (VIIc) の場合は, allethrin の 10倍の活性を示した。また, その thenyl alcohol の 2, 2, 3, 3-テトラメチルシクロプロパンカルボン酸エステル (VIIIc) も, ほぼ VIIc にひとしい殺虫効力を示した。

LaForge らによるピレトリンの構造決定以来, そ の修飾による新しい有効殺虫剤探索の試みが数多くな され, allethrin, furethrin および cyclethrin が発 見された。 これらの pyrethroids は、いずれも、 cyclopentenolone 環の側鎖の変換を試みることによ り見出されたものである。その後、Barthel らによる barthrin¹), dimethrin²) の発見を端緒として, synthetic pyrethroids の研究が急速にさかんとなり、 Elliott らによる resmethrin3 をはじめとして、多 数の有効 pyrethroids が報告されてきた(~10). これら の研究により、すでに、pyrethroids のアルコール成 分として, cyclopentenolone 以外の benzyl alcohol, furanmethanol, thenyl alcohol などが基本骨格と して有効であることが認められてきている。 これらに ついては、いずれも多数の置換体が検討されている が、alk-2-enyl 置換体に関しては、 系統的に検討さ れたものとしては、 Elliott らによる置換 benzyl chrysanthemate 類5) が報告されているのみである. その他に、 5-allyl-furfuryl chrysanthemate が Elliott らっにより、また、Japothrin として勝田らり により合成され、 植田ら¹¹⁾ により 5-allyI-2-thenyl chrysanthemate が見出され、それぞれ、pyrethroid としての有効性が確認されている。今回、われわれは、 5-alk-2-enyl 置換-furfuryl および-2-thenyl chrysanthemate 類をとりあげ、 alk-2-enyl 側鎖の構造 と殺虫作用の関係を検討する目的で、 Chart 1 およ び Chart 2 に示す方法で、6種の第一菊酸エステル 類と1種の2,2,3,3-テトラメチルシクロプロパンカ ルボン酸エステルの合成を行なった.

すなわち, furfuryl acetate を酢酸亜鉛,塩化亜 鉛の存在下, crotyl chloride と還流させつつ反応せ しめて、5-but-2-enyl-furfuryl acetate (Ia) とし、 これの加水分解によって対応するアルコール体 (IIa) を得た。 この物質は Tarnopol'skii ら¹²⁾ による 5-(3-methylbut-2-enyl)-furfuryl acetate (Ib) の合 法成に示す温度条件下(実験の部参照)では得られず、 温度を上げることによってのみ少量の(Ia)が得られ た。5-cyclopent-2-enylfurfuryl alcohol (IIc) は IIb と同様の方法で furfuryl acetate と 3-chloro-1cyclopentene の反応によって得られる 5-cyclopent-2-enylfurfuryl acetate (Ic) を加水分解することに より得られた. これらの 5-alk-2-enyl furfuryl alcohol 類 (IIa, IIb, IIc) は常法により,第一菊酸塩 化物を用いてエステル化し、対応する第一菊酸エステ ル IIIa, IIIb および IIIc を得た。 これらのエステル の構造は IR, NMR および元素分析によりそれぞれ, 確認した。

一方、5-alk-2-enyl 置換 2-thenyl ester 類の合成は Chart 2 に示すように、二つの径路により行なった。 5-but-2-enyl-2-thenyl alcohol (VIa) は thiophene と crotyl alcohol の 85%H2 SO4を用いる縮合反応により得られた 2-but-2-enylthiophene (IVa)を POCl3-DMF を用いる Vilsmeier-Haack reaction によりホルミル化して、5-but-2-enylthiophene-2-carboxaldehyde (Va)とし、これの常法による NaBH、還元で (VIa)を初た。他方、5-(3-methylbut-2-enyl)-2-thenyl alcohol (VIb) および 5-cyclopent-2-enyl-2-thenyl alcohol (VIc) はそれぞれ、thiopheneと isoprene あるいは cyclopentadieneを 85% H3PO4の存在下、反応させることによって得られる 2-(3-methylbut-2-enyl)-thiophene (IVb)13)および 2-cyclopent-2-enyl thiophene(IVc)

Table 1. Physical Properties of

$$R = \begin{bmatrix} R_1 \\ CH_2OCCH \\ C \\ CH_3 \end{bmatrix} CH_3$$

	,	_								Anal.	(%) Fou	nd
No.	R	X	R ₁	R	bp°C	(mmHg)	$n_{\rm D}(^{\circ}{\rm C})$	Formula	C	H	Ĉ	Н
IIIa -	CH ₂ CH=CHCH ₃	0	$-CH=C(CH_3)_2$	Н	130~	1(0.1)	1.5019(18)	C19H26O3	75, 46	8.67	75.68	8. 57
IIIb -	$CH_2CH = C(CH_3)_2$	0	$-CH = C(CH_3)_2$	H	135~	7(0,05)	1,5017(18)	$C_{20}H_{28}O_3$	75.91	8.92	76.08	9.02
IIIc	$\overline{\ }$	o	$-CH=C(CH_3)_2$	Н	139~4	0 (0.09)	1,5177(18)	C ₂₀ H ₂₅ O ₃	76.40	8. 34	76.80	8. 47
VIIa -	-CH ₂ CH=CHCH ₃	s	$-CH = C(CH_3)_2$	Н	155~6	62(0.6)	1.5167(20)	C19H26O2S	71.67	8, 23	71.17	8.39
VIIb -	$-CH_2CH'=C(CH_3)_2$	S	$-CH = C(CH_3)_2$	Н	140~2	(0.06)	1,5236(20)	$C_{20}H_{28}O_{2}S$	72, 26	8.49	72, 10	8. 21
VIIc	\triangleleft	s	$-CH=C(CH_3)_2$	Н	155~	7 (0.2)	1.5336(20)	C ₂₀ H ₂₈ O ₂ S	72, 20	7. 93	72, 65	8. 05
VIIIc		S	CH ₈ C	Н	140~	5 (0.35)	1, 5192(20)	C18H24O2S	71.02	7. 95	70, 98	7. 80

Table 2. Insecticidal Activities of 5-Alk-2-enyl-substituted Furfuryl and 2-Thenyl Cyclopropanecarboxylates

	Topica	l application	Spray method				
No.	LD_{50} ($\mu g/fly$)	Relative potency	K'	Γ_{50}	Mortality (%)		
IIIa	1, 4	40	15′	59"	92. 7		
IIIb	>4	<15	30′	49"	50. 7		
IIIc	0. 27	220	16'	49"	100		
VIIa	0. 29	200	10′	03"	100		
VIIb	0.30	200	17'	25"	100		
VIIc	0.06	1000	13'	40"	100		
VIIIc	0.07	860	5′	02"	88. 9		
allethrin*	0.6	100					

^{*;} dl-cis, trans-chrysanthemate

をそれぞれ、 IVa と同様に Vilsmeier-Haack reaction に付し、対応するアルデヒド (Vb), (Vc) となした後、NaBH、 還元することにより、相当するアルコール体 VIb および VIc を得た.

これらのアルコール体は、第一菊酸塩化物とエステル化して、第一菊酸エステル (VIIa)、(VIIb)、(VIIc) を、また VIc を 2、2、3、3-テトラメチルシクロプロパンカルボン酸塩化物とエステル化して、 エステル (VIIIc) を得た。

合成したエステル類の物型性状を Table 1 に示した。また、これらエステル7種につき、家バエを用い、局所施用法¹⁰および長沢式噴霧降下法¹⁵による殺虫効力の検討を行なった。その結果を Table 2 に示す。

まず, furfuryl ester 系においては, but-2-enyl

置換体 (IIIa) が、allethrin の約½の 殺虫効力を示した。 また、cyclopent-2-enyl 置換体 (IIIc) に allethrin の約2倍の強力な殺虫効力が認められた。 この物質の効力は、中西ら160によっても認められており、5-allylfurfuryl chrysanthemate^{7,60} に匹敵する効力と考えられる。 しかし、3-methyl-but-2-enyl 置換体 (IIIc) においては、4μg/fly 以下の弱い活性が存在するのみであった。これは、cyclopentenolone ester 系列における不飽和側鎖として、3-methylbut-2-enyl 基を行する第一菊酸エステル¹⁷⁰が、allethrinの約%の効果しか示さないことに類似した結果であった。

一方,長沢式噴霧降下法を用いた knock down 効果は,furfuryl ester系 IIIa,IIIb,IIIc 共に速効的と

はいい難く、殺虫効力の高い IIIc においても、 KT_{50} 値が約17分であった。

次に、5-alk-2-enyl-2-thenyl ester 系については、 合成した4種のエステルは、いずれも、 allethrin を 凌駕する殺虫効果を示した。 すなわち、 but-2-enyl 置換体 (VIIa) および, 3-methylbut-2-enyl 置換体 (VIIb) は、いずれも、allethrin の2倍の効果を示し た。 側鎖としての 3-methylbut-2-enyl 置換基が上 述したごとく, furfuryl ester 系列および cyclopentenolone ester 系列で有効でないことを考えるとき, 同置換基を有する VIIb の効果は、予想外であった。 また、cyclopent-2-enyl 置換体は、その第一菊酸エ ステル (VIIc), 2, 2, 3, 3-テトラメチルシクロプロパ ンカルボン酸エステル (VIIIc) ともに、きわめて強 力な殺虫効力を示し、その効果は、allethrin の10倍、 8倍に相当し、これまでに報告された 2-thenyl ester 系の中でも、最も高い効果に属するものと考えられる. cyclethrin および IIIc の有効性を考慮して、pyrethroid のアルコール成分の側鎖として、 cyclopent-2-enyl 基は、一般的にかなり有効である。 また、 こ **とに合成したエステルについては、同一の置換基に関** して、2-thenyl ester 系が、furfuryl ester 系より も、いずれも高い殺虫効果を示すことがわかった。た とえば、cyclopent-2-enyl 基をもつ第一菊酸エステ ルでは、2-thenyl ester が furfuryl ester の約4倍 の殺山効力を有し、3-methylbut-2-enyl 置換体では、 10倍以上の増加が認められた。しかし、knock down 効果に関しては、furfuryl ester 系の場合に見られた ように、一般的には速効性とはいいがたく、第一菊酸 エステルの中で、もっとも速効的であった VIIa でも, KTso 仙は、約10分であった. しかし、VIIc を 2, 2, 3,3-テトラメチルシクロプロパンカルボン酸エステル にかえた VIIIc の KT50 値は、約5分で VIIc の 14分に比し、かなり速効性を増し、速効的とされる

2, 2, 3, 3-tetramethylcyclopropanecarboxylic acid ester¹⁸) の特徴を裏づける結果が得られた。

実 験 の 部*

合成法

5-(3-Methylbut-2-enyl)-furfuryl acetate (Ib)¹²⁾ の合成

furfuryl acetate 72g を無水 Et₂O 90ml に溶かし, 飽和 ZnCl₂-Et₂O soln. 10ml および (AcO)₂ Zn 2g を加える. 攪拌下に、3-methylbut-2-enyl chloride 35g の中の一部を加える. 反応液が黄緑色に変化したところで、反応温度を0~5°Cに保ちながら、(AcO)₂Zn 45g を加え、ついで残りの 3-methylbut-2-enyl chloride を徐々に滴下する. 滴下後、15分攪拌反応し、反応液を氷水中に注入する. Et₂O 厨を分取し、水洗、乾燥後、溶媒を留去し、目的の (Ib) 13g をうる. bp 100°C (1.5mmHg) (lit.¹²)bp 110°C (3mmHg)). IR ν max cm⁻¹: 1740 (エステルC=O), 840(\(C=C\) C=C\(H\) 、785 (furan ring).

5-Cyclopent-2-enylfurfuryl acetate (Ic)

furfuryl acetate 60g, 3-chloro-1-cyclopentene 30g とを用いて、Ib の合成法に準じて反応を行ない、目的物 Ic 18g をうる。bp $105\sim110^{\circ}$ C (1.0mmHg). IR ν_{\max}^{film} cm $^{-1}$: 1740 (エステル C=O), 785 (furan ring), 750, 710 (cyclopentene).

5-But-2-enylfurfuryl acetate (Ia)

furfuryl acetate 30.8g, crotyl chloride 18.2g を用い、Ib の合成と同一条件下で反応を行なったが、Ia は得られなかった。そこで、提拌下、6hr 湿流して、目的とする Ia 4.1g を得た。bp75~8°C (0.1mm Hg). IR $\nu_{\rm max}^{\rm film}$ cm⁻¹: 1740 (エステルC=O)、960 (trans $_{\rm H}$ >C=C)、790 (furan ring).

^{*} IR スペクトルは Hitachi IR Spectrometer で、NMR スペクトルは TMS を内部標準とし、Hitachi Perkin-Elmer R-20 type (60Mc) で測定、磁点はすべて未補正、本実験に用いた第一菊酸クロリドはすべて dl-cis, trans 混合体である。

5-But-2-envlfurfuryl alcohol (IIa)

Ia 10g を10% KOH aq. soln. 30ml に加え、1hr 型流後,常法のように処理して,蒸留すれば Ha 4.6g 短所な、他伝のようにを呈びく、流流 / tilm をうる。bp 75~9°C (0.3mmHg)。IR v film cm-1: 3300 (OH), 960 (trans $_{\rm H}$) $C = C < _{\rm C}$), 785 (furan ring).

5-(3-Methylbut-2-enyl)-furfuryl alcohol (IIb)(2) bp 87°C (0.3mmHg) (lit.12)bp 115°C (3.5mmHg)). IR $\nu \frac{\text{film}}{\text{max}} \text{cm}^{-1}$: 3250 (OH), 840 $\rangle C = C \stackrel{\text{H}}{\langle}$ 785 (furan ring).

5-Cyclopent-2-enylfurfuryl alcohol (IIc) bp 97~8°C(0.7mmHg). IR $\nu \frac{\text{film}}{\text{max}} \text{cm}^{-1}$: 3320 (OH), 785 (furan ring), 750, 710 (cyclopentene). Anal. Found: C, 73.07; H; 7.08, Calcd. for C10H12O2: C, 73. 14; H, 7. 37%.

5-But-2-enylfurfuryl chrysanthemate (IIIa)

IIa 2.7g を n-hexane 35ml にとかし、EtaN 2ml を加え, ついで, 冷却攪拌下に, chrysanthemoyl chloride 3.3g を滴下,室温に一夜放置後,析出結晶 を沪別し、沪液を水洗乾燥する、溶媒を留去した後、 城圧蒸留すれば IIIa 4.4g をうる. IR ν film cm-1:

1735 ($x \approx 7 \nu C = 0$), 960 (trans H > C = C < H), 785 (furan ring), NMR (CCl₄) δ : 3, 15~3, 37 $(2H, m, -CH_2-CH=), 4.90 (2H, s, CH_2O), 5.30~$ 5.68 (2H, m, CH=CH), 5.86 (1H, br. d, furan ring H), 6.18 (1H, d, J=3.6cps, furan ring H).

5-(3-Methylbut-2-enyl)-furfuryl chrysanthemate (IIIb)

IR $\nu \frac{\text{film}}{\text{max}} \text{cm}^{-1}$: 1730 ($\pm \alpha \neq \nu C = 0$), 850 $(C = C_{II})$, 785 (furan ring). NMR (CCl₄) δ : 3.26 (2H, d, J=7. 2cps, CH₂-CH=), 4.59 (2H, s, CH₂O), 5. 81 (1H, br. d, furan ring H), 6. 15 (1H, d, J=3, 6cps, furan ring H)

5-Cyclopent-2-enylfurfuryl chrysanthemate

IR $\nu \frac{\text{film}}{\text{max}} \text{cm}^{-1} : 1735(\pm 2 \pi \nu \text{C} = 0), 785 (furan$ ring), 750, 710 (cyclopentene), NMR (CCl₄) δ : 3.70~4. 11 (1H, m, cyclopentenyl methine), 4.90 (2H, s, CH₂O), 5. 60 \sim 5. 98 (3H, m, \rightarrow and furan ring H), 6.16 (1H, d, J=3.6cps, furan ring

以上の菊酸エステルは、いずれも、δ1.11,1.23 お よび 1.70 付近に、菊酸部に基づく NMR signal を

2-But-2-enylthiophene (IVa)

thiophene 84g, crotyl alcohol 36g を 55°C に加 温し, 攪拌下, 85% H₂SO₄42g を滴下する. 同温度 で 2hr 反応後, Na₂CO₃ で中和, Et₂O で抽出する. 無水 Mg SO, で乾燥後, 溶媒留去, 減圧蒸留して, 35g の無色の液体をうる. bp80~82°C (22mmHg), $n_{\rm D}^{20}$ 1.5233 (lit.18) bp 97°C (39mm Hg), $n_{\rm D}^{20}$ 1.5280) IR $\nu \underset{\text{max}}{\text{film}} \text{cm}^{-1}:965 \left(H \right) C = C \left\langle H \right\rangle$.

2-(3-Methylbut-2-enyl)-thiophene (IVb)13) thiophene 25.2g に 85%H₃PO, 10ml を加え、概 拌下, isoprene 13.6g と thiophene 25.2g の混液 を 27~37°C で加える。 室温で 5hr 反応した後,酸層 を除去し、有機層を水洗後、過剰の thiophene を留 去, 減圧蒸留して IVb 21g をうる. bp 79~84°C (11mmHg) (lit.13)79°C (9.7mmHg)).

2-Cyclopent-2-enylthiophene (IVc)

thiophene 50.4g と,85% H₃PO4 の混液を-10°C に冷却, 攪拌下, cyclopentadiene 46g と thiophene 50.4g の混液を加える. 0°C で 1hr 反応した後, 一 夜室温放置, 有機層を分離, 水洗, 乾燥 (無水 Na₂ SO4), thiophene の過剰を留去後、減圧蒸留、収量 36g, bp 92~95°C (17mmHg), n_D^{20} 1. 5544.

5-Cyclopent-2-enylthiophene-2-carbox-aldehyde (Vc)

POCl₃ 10. 9ml, DMF 28. 8g の混合物を水で冷却しつつ、35°C 以下で、IVc 19. 7g を滴下する。30~35°C で 2hr 反応後、一夜室温放置、氷水中に注入、Na₂CO₃ で中和後、Et₂O抽出、乾燥(無水 Na₂SO₄)溶媒留去後、減圧蒸留して Vc 13.6g をうる。bp 95~97°C (0.15mmHg)、n_D²⁰ 1.6033、IR ν film cm⁻¹:1710(C=O)、セミカルパゾン:mp 197~8°C. Anal. Found:C, 56. 38; H, 5. 48; N, 17. 75. Calcd. for C₁₁ H₁₅ N₃ OS: C, 56. 16; H, 5. 57; N, 17. 86. %。

5-(3-Methylbut-2-enyl)-thiophene-2-carbox-aldehyde (Vb)

IVb 20g を用い、Vc の場合と同様に反応し、Vb 14.2g をうる。bp95~103°C (0.6mmHg)、 n_D^{20} 1.5703. IR ν_{max}^{film} cm $^{-1}$:1675 (C=O)、845 (〉C=C〈H〉、810 (thiophene ring)、NMR (CCl₄) δ :1.72 (6H, d, J=3.6cps, C=C (CH₃)₂)、3.49 (2H, d, J=7.2cps, -CH₂-C=)、5.10~5.48 (1H, m, -CH=C-(Me)₂)、6.76 (1H, d, J=3.6cps, ring 3 position)、7.43 (1H, d, J=3.6cps, ring 4 position)、9.66 (1H, s, -C=O)、セミカルバゾン:淡黄色結晶、mp 198~200°C、Anal、Found:C、55、56;H,6.19;N,17.57、Calcd、for C_{11} H_{15} N_3 OS:C、55、68;H,6.37;N,17.71%

5-But-2-enylthiophene-2-carboxaldehyde (Va)

IVa 27. 6g を用い、Vc の場合と同様に反応して Va 14.7g をうる. bp 80~2°C(0.15mmHg), IR $\nu_{\text{max}}^{\text{film}}$ cm $^{-1}$: 1670 (C=O)、965 (trans $_{\text{H}}$ C=C($^{\text{H}}$)、810 (thiophene ring)、 NMR (CCl₄) δ : 1. 55~1. 82 (3H, m, allylic CH₃)、5. 30~5. 65 (2H, m, CH=CH)、3.07~3. 46 (2H, m, CH₂·C=)、6. 80 (1H, d, J=3. 6 cps, ring 4 position)、7. 46 (1H, d, J=3.6 cps, ring 3 position)、9.66 (1H, s, -C $^{\text{O}}_{\text{H}}$)、セミカルバゾン:淡質色粘晶、mp190~1°C、Anal、Found:C、53. 65; H、5. 77; N、18. 62、Calcd、for $C_{10}H_{13}N_3OS$: C、53. 80; H、5. 87; N、18. 83%.

5-Cyclopent-2-enyl-2-thenyl alcohol (VIc)

含水 MeOH(CH₃OH 18m, 水 2m*I*)中の NaBH₄ 4.8g に対し、冷却攪拌下、Vc 11.0g を滴下、20°C 以下で 8hr 反応、反応液は、酢酸一氷水中に注入、Na₂CO₃ で中和、Et₂O 抽出、乾燥(Mg₂SO₄)溶媒 留去後減圧蒸留し、7.2g の VIc をうる。bp 110~115°C(0.15mmHg)、 $n_{\rm D}^{20}$ 1.5803、 $\rm IR \ \nu_{\rm max}^{\rm film} \ cm^{-1}$: 3350 (OH)、800 (thiophene ring)、3,5-ジニトロベ

ンゾエート: 帯黄色柱状晶, mp 90~91°C. Anal. Found: C, 54, 44; H, 3.69; N, 7.34. Calcd. for C₁₇ H₁₄ O₆ N₂ S: C, 54, 55; H, 3.77; N, 7.48%.

$5\hbox{-}(3\hbox{-}Methylbut\hbox{-}2\hbox{-}enye)\hbox{-}2\hbox{-}thenyl\ alcohol}$

(VIb)

Vb 7.0g を用い、(VIc) の場合と同様に反応して、VIb 6.4g をうる。bp100~103°C (0.15mmHg)、 n_D^{20} 1.5641. IR $\nu_{\rm max}^{\rm film}$ cm $^{-1}$: 3350 (OH)、840 (\backslash C = C (\backslash H)、800 (thiophene ring). 3、5-ジニベトロンゾエート:mp 166~8°C. Anal. Found: C、54.10; H, 4.12; N、7.23. Calcd. C、54.26; H, 4.29; N、7.44%.

5-But-2-enyl-2-thenyl alcohol (VIa)

Va 11.7g を用い、VIc の場合と同様に反応して、VIa 8.2g をうる。 $bp81\sim3^{\circ}C$ (0.13 mm Hg)、 n_D^{20} 1.5474. IR $\nu_{max}^{film} cm^{-1}$: 3350 (OH)、965 (trans H > C = C < H)、800 (thiophene ring). 3、5-ジェトロベンゾェート:無色粒状晶、 $mp87\sim9^{\circ}C$. Anal. Found: C、52.96; H、3、83; N、7、65. Calcd. for $C_{16}H_{14}N_2O_6S$; C、53.04; H、3.90; N、7、73%.

5-Cyclopent-2-enyl-2-thenyl chrysanthemate (VIIc)

VIc 3.6g, Et_aN 2.2g をベンゼン 20ml にとかし, これに菊酸クロリド 3.7g を加えて一夜放置する。これを常法のように処理して VIIc 4.8g をうる。

IR $\nu_{\text{max}}^{\text{film}}$ cm⁻¹: 1724 (C=O), 850 \bigcirc C=C $\stackrel{\text{H}}{\bigcirc}$, 800 (thiophene ring). NMR (CCl₄) δ : 3. 78~4. 30 (1H, m, cyclopentenyl methine), 5. 07 (2H, s, -CH₂O-), 5. 65~5. 98 (2H, m, cyclopentenyl $\stackrel{\text{H}}{\bigcirc}$ C=C $\stackrel{\text{H}}{\bigcirc}$), 6. 53, 6. 77 (1H each, d each, thiophene ring 3, 4 position, J=3.6 cps).

5-(3-Methylbut-2-enyl)-2-thenyl chrysanthemate (VIIb)

IR $\nu_{\text{max}}^{\text{film}}$ cm⁻¹: 1715 (C=O), 850 $\left\langle \right\rangle$ C = C $\left\langle \right\rangle$ H . 800 (thiophene ring). NMR (CCl₄) δ : 4.65~5.54 (2H, m, 2×-CH=C-(Me)₂), 5.08(2H, s, -CH₂O-), 3.42 (2H, d, J=7. 2cps, =CH · CH₂-), 6.53, 6.78 (1H each, br. d each, thiophene ring 3, 4 position).

5-But-2-enyl-2-thenyl chrysanthemate (VIIa)

IR $\nu_{\rm max}^{\rm film}$ cm⁻¹: 1725 (C=O), 965 (trans-三世換 olefine), 800 (thiophene ring), 850 (\rangle C=C \langle H \rangle). NMR (CCl₄) δ : 3.15~3.97 (2H, m, =CH·CH₂-), 5.04(2H, s,-CH₂O-), 5.30~5.63(2H, m, -CH=CH-), 6.42~6.83 (2H, m, thiophene ring 3, 4 position).

5-Cyclopent-2-enyl-2-thenyl 2, 2, 3, 3-tetra-

methylcyclopropanecarboxylate (VIIIc)

IR ν film cm⁻¹: 1725(C=O), 800 (thiophene ring). NMR (CCl₄) δ : 1. 65~2. 65 (4H, m, cyclopentenyl ring-CH₂CH₂-), 3. 88~4. 28 (1H, m, cyclopentenyl methine), 5. 06 (2H, s, -CH₂O-), 6. 58, 6. 80 (1H each, d each, J=3.6cps, thiophene ring 3, 4 position).

殺虫効力試験

局所施用法14)

高槻系イエバエ (Musca domestica vicina Macq.) の胸部背板に、検体のアセトン稀釈液を、マイクロシリンジにより、1 頭あたり $0.5\mu l$ 施用し、24hr 後の致死率を観察した。

長沢式噴霧降下法16)

長沢式噴霧降下装置により、イエバエに対し、検体 の1% Deo-base 溶液 0.5ml を噴霧し、時間一致落 下仰転率と 24hr 後の致死率を観察した。

謝辞 本研究に際し、御指導を賜った名古屋大学農学部宗像桂教授ならびに斎藤哲夫教授に深謝いたします。また、発表の機会を与えられた当社の常務取締役井川俊一博士、研究部長田中一郎博士に感謝いたします。

文 献

- Barthel, W. F. and B. H. Alexander: J. Org. Chem., 23, 1012 (1958).
- 2) Barthel, W. F.: 特許公報, 昭35-8318.
- Elliott, M., A. W. Farnham, N. F. Janes, P. H. Needham and B. C. Pearson: *Nature*, 213, 493 (1967).
- Kato, T., K. Ueda and K. Fujimoto: Agr. Biol. Chem., 28, 914 (1965).
- Elliott, M., N. F. Janes, K. A. Jeffs, P. H. Needham and R. M. Sawicki: *Nature*, 207, 938 (1965).
- 6) 勝田純郎, 大神弘: 防虫科学, 31, 30 (1966).
- 7) Elliott, M.: 特許公報, 昭44-10279.
- 8) Katsuda, Y., H. Ogami, T. Kunishige and

- Y. Sugii: Agr. Biol. Chem., 31, 259 (1967).
- Katsuda, Y., T. Chikamoto, H. Ogami, H. Hirobe and T. Kunishige: Agr. Biol. Chem., 33, 1361 (1969).
- 10) 中西美智夫,向井俊彦,稲桝修司,津田 厚,安部宏三:防由科学,35,76(1970).
- 11) 植田賢三, 水谷俊夫, 板谷信瓜, 藤本敬明, 奥野 吉俊:特許公報, 阳44-5385.
- 12) Tarnopol'skii, Yu. I. and V. N. Belov: Khim. Geterotsikl. Soedin., Akad. Nauk Latv. SSR 1965 (5), 651 [C. A., 64, 8117e (1966)].
- 13) Pines, H., B. Kvetinskas, J. A. Vesely and E. Baclawski: J. Am. Chem. Soc., 73, 5173 (1951).
- 14) Sota, K., M. Aida, K. Noda and A. Hayashi: Agr. Biol. Chem., 36, 2287 (1972).
- 15) 長沢純夫:防虫科学, 18, 138 (1953).
- 16)中西美智夫,向井俊彦,稲桝修司:特許公银,昭 44-31597。
- 17) Gersdorff, W. A.: J. Econ. Entomol., 42, 532 (1949).
- Matsui, M. and T. Kitahara: Agr. Biol. Chem.,
 11, 1143 (1967).

Summary

Some 5-alk-2-enyl-substituted furfuryl and 2-thenyl chrysanthemates (IIIa~c, VIIa~c) were synthesized starting from the reaction of furfuryl acetate with haloalkenes and those of thiophene with crotyl alcohol or dienes, such as cyclopentadiene, respectively. The esters obtained were examined for insect toxicity against houseflies.

In both the series of furfuryl and 2-thenyl esters, the cyclopent-2-enyl substitution was most effective, and especially the 2-thenyl ester (VIIc) was 10 times more potent than allethrin. The 2, 2, 3, 3-tetramethylcyclopropanecarboxylate (VIIIc) of the thenyl alcohol was also about as toxic as VIIc,